

VisionとStrategy 医療・福祉経営の新時代と人財を創る 戦略

特集

新・地域医療計画と、 時代に即応した病院経営

Part 1 住民の視点に立った地域医療計画は、
4疾病5事業における医療連携が軸

Part 2 「7疾病・5事業」における医療連携について、
医療圏ごとに医療機関名を開示した静岡県

私のVisionと経営戦略

厚生労働省 老健局老人保健課課長

鈴木 康裕 氏

医療福祉経営最前線

特定医療法人つくばセントラル病院（茨城県牛久市）

どうなる医療経営

地域医療計画を斬る—①

地域医療計画が目指すもの

セミナー案内掲載



2008

7

高齢者住宅問題と 医療機関

コスモプラン株式会社
一級建築士事務所

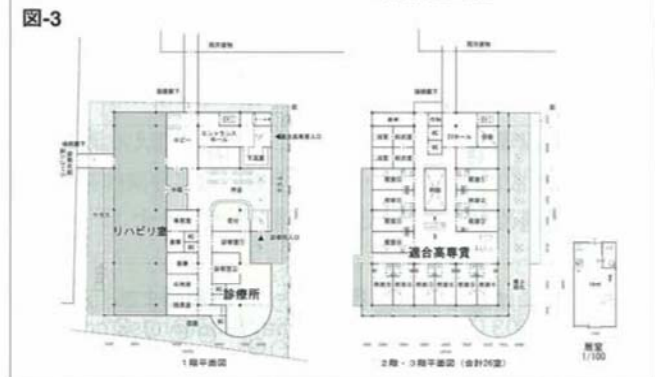
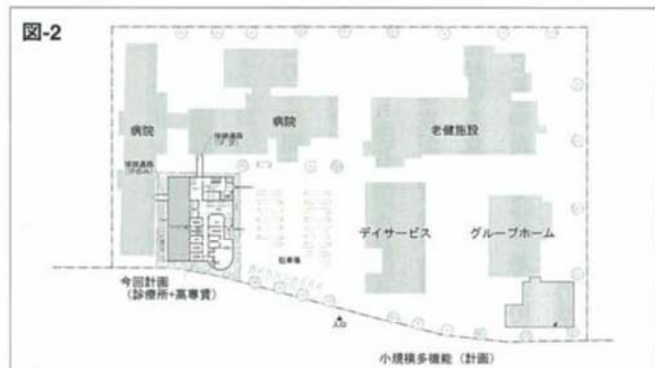
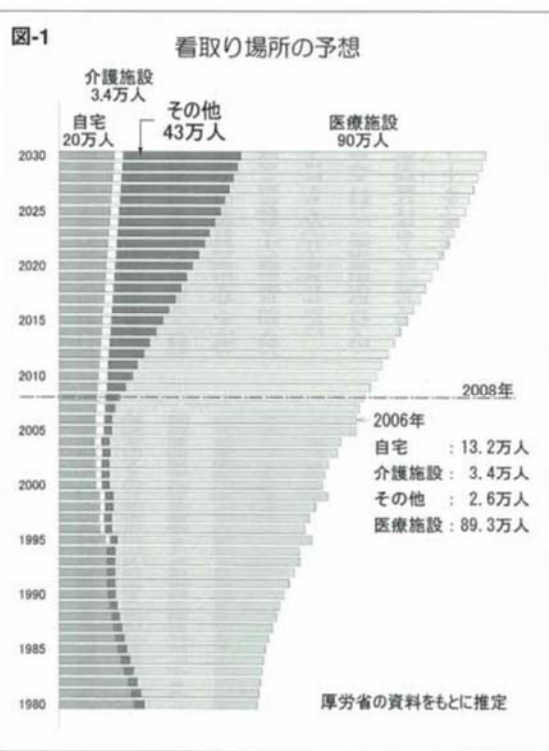
代表取締役

水野 直樹

Naoki Mizuno

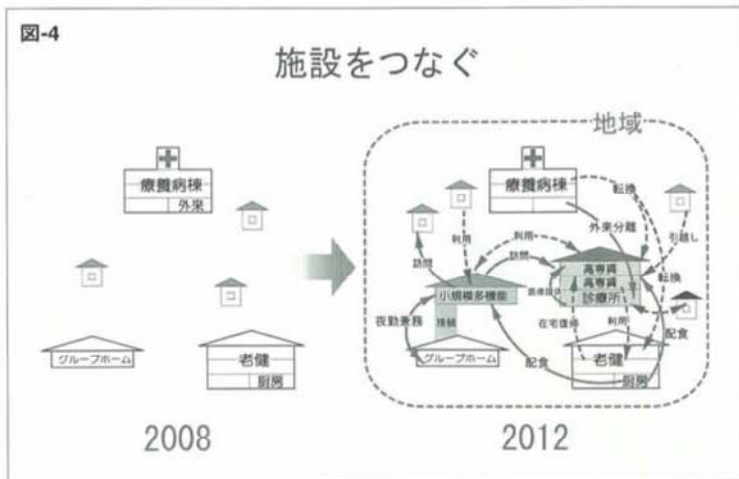


図・1を見ると今後医療・介護を必要とする大勢の高齢者が「施設でも自宅でもない新たなカテゴリーの住まい」で生活することになる。この傾向は今後20年間に渡り急速に肥大化し社会問題になると思われる。今後必要とされる高齢者用の新しい住まいとは、一般アパート並みの家賃で入居でき、容易に住み替えが可能で、かつ医療・介護の提供付きの高齢者賃貸住宅だ。運営は医療法人が主体になる。最近、筆者のもとにも医療法人から、このような「高齢者の住まい」の企画・設計依頼が増えてきた。以下に最近の事例を2件紹介する。



医療型適合高専賃
図・2・3は地方都市の医療法人から計画を依頼されている

案件だ。外来+療養病棟+通所リハビリ+デイサービス+G+Hを同一敷地内で展開している法人の敷地内に計画中の建築だ。特色は①外来分離。②療養病床転換及び老健の在宅復帰に関わる高専賃。③既存の施設を有機的につなぐ医療型適合高専賃である。(図・4は計画概念図である。)この場合、医療ニーズが高い利用者用の高専賃になる。既存病院と接続通路でつなぐことで、外来患者の検査等は母体の病院で行うことも可能になり新規設備投資を軽減できる。



悩ましい問題が軽減された。）

介護型適合高専賃

図・5は、医療法人が病院の近隣に所有する土地に計画している適合高専賃（30室）+小規模多機能+G H+デイサービス+店舗である。

特色は①遊休土地を利用。②複合型。

③中重度介護型適合高専賃である。法人は既に長期に渡り地元で医療・介護を展開しており、関連に特養を運営している。言わば「地方都市における医療・介護の母船」だ。療養病床転換、外来分離、介護事業の合理化等さまざまな問題を勘案しながらの計画だ。土地資本を所有する強みと、地域における知名度を生かし大規模複合型施設を計画している。中重度介護要求に耐えられるような建築とするが、入居者が退屈しないように、地域との関連や人々のつながりを大切にし生活の自然な継続を意識

する建物を計画する。（適合高専賃でこの計画規模の場合、準耐火建築でもよいので、木造準耐火構造としローコスト建築に予定である。）

高齢者の新しい住まい

「施設でも自宅でもない新しいカテゴリーの住まい」に住む住民の多くは「団塊の世代」であること、今後の「社会保障の変化」を考慮すると、これからの高齢者の住まいは大変重要な位置付けになる。ここに挙げた事例を見ると、同じ高専賃という用途が関連しているが、その内容はそれぞれ全く違う。筆者はこの違いが実は重要なことと見る。

これまでの医療・福祉・まちづくりは「一定の制度」のもとに全国一律の基準で押し進められてきたが、今後はそれぞれの地域でそこに生活する人々が自努力で生きる時代だ。特に地域に密接に関わる医療・福祉関連法人の今後の動向は重要になる。確かに厳しくなる制度改定の中、明るい話題など何処にも無い。しかし各法人とも今後は地域貢献していただきたい。

い。必ず活路があるはずだ。

本誌07年11月号より合計9回、建築家の立場で執筆させていただいた。この期間だけでも厚労省及び国交省の発する制度は目まぐるしく変わっているし、今後と同様な状況が推測される。国そのものがメタボになつた日本が社会保障制度においても、今までのような肥大化と逆行する時代に入っている。また、当局側の今後の傾向としては、省庁連携が強化されるわけで、各法人とも以前よりも制度に振り回されることになる。

以前、ある病院長が筆者に語った言葉がある。「医療経営者として進む方向は二つに分けられる。一つは制度を常に先読みし機敏かつ有効に取り入れる。もう一つは、何もせずじっとしていることだ。」さらに「前者を選んだ場合、立ち止まることは許されない。医療経営とはそういうものだ。」「社会情勢の変化で医療制度がいかなる方向に変わったとしても走り続けることになる。」と語った。本誌会員の法人は是非、走り続けていただきたい。



変ったとしても走り続けることになる。」と語った。本誌会員の法人は是非、走り続けていただきたい。